

聖書講座

I 「聖書と社会」 聖書講座

2 旧約聖書 2-2 十戒 視聴覚教材
おぼすて

おばすて

おばすて駅

姨捨駅（おばすてえき）は、長野県千曲市大字八幡姨捨にある、東日本旅客鉄道（JR東日本）篠ノ井線の駅である。

2011年（平成23年）7月24日：駅舎外装及び跨線橋リニューアルに伴い、記念式典開催^{報道4)}。

https://www.jreast.co.jp/nagano/pdf/110712_2.pdf



リニューアル前の駅舎（2006年9月）



駅舎外観(イメージ)

むかし、むかし

昔、信濃の国に年寄りの大嫌いな殿様がいた。彼は、70歳になった老人は山へ捨ててくるよう国中におふれを出した。ある月明かりの夜、一人の若者が年老いた母を背負って山に登って行った。彼の母親は70歳になったので山に捨てなければならなかった。

しかしいざ山に登り、捨てるという時に、どうしても捨てることが出来ず、そのまま母を背負って山を下り、こっそり床下に穴を掘って母をかくまっていたのである。

さて、そのころ、殿様のもとへ、隣国から使者がやって来て「灰で縄をなえ、丸曲の玉に糸を通せ、さもないと国を攻める。」という難題をもちかけてきたのである。

困った殿様は、おふれを出し、この難題を解ける知恵者を探し求めた。これを知った若者が、床下の母に尋ねると、母は塩水にひたしたワラでなつた縄を焼けばよいこと、玉の一方に蜜をぬり、その反対側から糸をゆわえたアリを通せばいいと教えてくれた。

若者は、さっそく殿様に申し出て、この方法を知らせたのであった。すんでのところで国難を救われた殿様はたいそう喜び、若者にほうびをとらせようとした。

「なんなりと申すがよい。ほうびは望むままに選ぜよう。」「ほうびはいりません。ただ、老いた母を助けてください。実は、この知恵をさずけてくれたのは、70歳になった私の母です。」若者は、涙ながらに母親のことを打ち明けたのである。

国難を救ったのが老婆の知恵であると知った殿様は、いたく感銘し、この時はじめて老人を大切にすべきことを悟ったのだった。むろん姨捨のおふれはほどなく廃止されたということである。1984